

慶應義塾大学

保健管理センター一年報

Annual Report of Keio University Health Center



2023

慶應義塾大学保健管理センター年報

Annual Report of Keio University Health Center

2023

目 次

巻頭言..... 広瀬 寛

I 本編

第1. 大学保健管理業務	3
第2. 一貫教育校保健管理業務	6
第3. 感染症対策	8
第4. 環境衛生業務	10
第5. 産業保健活動	12
第6. 教育	13
第7. 研究	14
(第8. 会議, 第9. 関連資料は資料編のみ)	
第10. 慶應義塾診療所	15

II 資料編

第1. 大学保健管理業務	
1. 年間主要業務	17
(1) 本部 (日吉)	
(2) 三田分室	
(3) 湘南藤沢分室 (看護医療学部分室を含む)	
(4) 信濃町分室	
(5) 矢上分室	
(6) 芝共立分室	
2. 学生定期健康診断	23
(1) 学生定期健康診断実施項目一覧	
(2) 学生定期健康診断受診状況	
(3) 学生定期健康診断の流れ	
(4) 学生定期健康診断 各検査の管理区分C判定集計	
(5) 学生定期健康診断 生活区分, 現病歴, 障害者の状況	
(6) 学生定期健康診断 二次検査等フォローアップ件数	
(7) 学生定期健康診断 結果報告書配布数・WEB閲覧件数	
(8) 学生定期健康診断 健康診断証明書発行	
(9) ライフスタイル調査結果	

3. 教職員定期生活習慣病健康診断	30
(1) 教職員定期生活習慣病健康診断実施項目一覧	
(2) 教職員定期生活習慣病健康診断受診状況	
(3) 教職員健康診断の流れ	
(4) 教職員定期健康診断集計	
(5) 医師面接実施状況	
(6) 特定保健指導	
(7) 消化器系検査	
(8) 女性教職員検診	
(9) 参考資料	
4. その他の健康診断	40
(1) 特定業務従事者の健康診断	
(2) 特殊健康診断	
(3) 病原体・遺伝子組換え実験業務従事者の健康診断	
5. 各種行事等救護状況	41
6. 女性のからだ・男性のからだ相談室利用者数	42
7. SOGI（性的指向・性自認）相談室利用者数	42
8. 教職員カウンセリング利用者数	42
9. 保健相談・応急処置等	42
第2. 一貫教育校保健管理業務	43
1. 年間主要業務	43
(1) 幼稚舎分室	
(2) 横浜初等部分室	
(3) 普通部分室	
(4) 中等部分室	
(5) 湘南藤沢中等部分室	
(6) 湘南藤沢高等部分室	
(7) 高等学校分室	
(8) 志木高等学校分室	
(9) 女子高等学校分室	
2. 保健室利用状況	52
(1) 幼稚舎分室	
(2) 横浜初等部分室	
(3) 普通部分室	
(4) 中等部分室	
(5) 湘南藤沢中部・高等部分室	
(6) 医療機関に依頼した外傷内訳 (幼稚舎分室・横浜初等部分室・普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)	
(7) 精神保健相談 (幼稚舎分室・横浜初等部分室・普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)	
(8) 高等学校分室	
(9) 志木高等学校分室	
(10) 女子高等学校分室	

(11) 精神保健相談 (高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室・湘南藤沢高等部分室)	
(12) 保健室で対応した面接等の事例数 (高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室)	
(13) 保健室利用一覧	
3. 児童・生徒定期健康診断	65
(1) 小学校 (幼稚舎分室・横浜初等部分室)・ 中学校 (普通部分室・中等部分室・湘南藤沢中等部分室)	
(2) 高校 (高等学校分室・志木高等学校分室・女子高等学校分室・湘南藤沢高等部分室)	
 第3. 感染症対策	
1. 学校において予防すべき感染症, および院内感染症対応 (登校・就業許可面接)	71
(1) 登校・就業許可面接数	
(2) 大学および病院 大学生・教職員の感染症対策	
(3) 一貫教育校 児童・生徒・教職員の感染症対策	
2. 結核対応	75
(1) 結核スクリーニング	
(2) 結核接触者健康診断	
3. ワクチンで予防できる感染症対応	77
(1) 麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘ウイルス対応	
(2) B型肝炎ウイルス対応	
(3) インフルエンザウイルス対応	
4. 血液曝露対応	81
5. 腸管感染症対応	81
 第4. 環境衛生業務	
1. 教室等の調査	83
2. 食堂の調査	85
 第5. 産業保健活動	
1. 労働衛生管理体制	87
2. 衛生委員会	87
3. 職場巡視	87
4. 就業区分判定	88
5. 産業医面接	89
6. 労働安全衛生教育	89
7. 労働者の心の健康保持	89
 第6. 教育	
1. 大学講義	91
2. 予防医療センター	96
3. 集団保健衛生教育	97

第7. 研究	
1. 保健管理センター教職員研究業績	103
2. 保健管理センター研究会	109
3. 保健管理センター研修会	110
第8. 会議	
1. 保健管理センター運営委員会	111
2. 業務連絡会	111
3. 幹事会・執行部会	112
4. 人事委員会	112
5. 看護職総会	113
6. 対外的活動	113
7. ワーキンググループ	113
第9. 関連資料	
1. 慶應義塾組織図	115
2. 慶應義塾大学保健管理センター規程	116
3. 大学保健管理センター人事委員会内規	119
4. 保健管理センター教職員一覧	120
5. 保健管理センター人事	121
6. 保健管理センター配置図	122
第10. 慶應義塾診療所	
1. 診療所について	123
2. 慶應義塾診療所規程	124
3. 診療所等受診者数	126
4. 精神・神経科受診者数	127
5. 外部医療機関依頼数	127
6. 診断書, 公文書発行など	127
7. 慶應義塾診療所管理委員会記録	128
編集後記	中島 清隆

巻 頭 言

慶應義塾大学保健管理センター
所長・教授 広瀬 寛

2023年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行がだいぶ収まってきました。一方で、以前のような状態に戻していくための規制の緩和も進み、大学としての活動が再開されていく過程で保健管理業務も新しい時代への対応を求められる年になりました。

学生健康診断は4月から各キャンパスで実施することができましたが、一日の受診者数には限界があるところへ、大学のガイダンス期間が短縮されたことが影響して、受診率の低下が課題になりました。一貫教育校の生徒・児童健康診断は、一部の項目を除きCOVID-19流行以前の状態に戻りました。教職員健康診断については、WEB上での予約や問診が充実し、比較的混雑することなく実施できました。

感染症対策ではCOVID-19が2023年5月8日から感染症法に基づく分類で2類相当から5類に見直されました。行政の方針変更に伴い、その対応の業務量は減りましたが、日常生活がCOVID-19流行前のような状態に戻っていくにつれ、小中学校をはじめとしてインフルエンザなど以前に流行していた学校感染症が増加し、対応が必要な状況となりました。

環境衛生業務では、教室調査は以前のように多くの学生が授業を受けている中で実施できるようになりました。食堂調査も例年通りの時期に実施できました。

産業保健活動では、職場巡視はCOVID-19流行前のような状態にほぼ戻りましたが、衛生委員会などの会議は利便性もあってオンライン開催が継続されている地区も多い状況です。

教育関係では、保健管理センターの設置講座も対面授業に戻りました。他部署と共同で開設している講座などは2022年から対面授業を再開しています。衛生講習会やBLS講習会、一貫教育校における保護者向けの講演会などもCOVID-19流行前のように対面で実施するようになりました。

研究に関しては、本誌の資料編で紹介している「業績」をご覧ください。

保健管理センターの会議は、スタッフの移動を減らす目的でオンライン開催を継続しています。

2023年度中の教員人事ですが、内科において4月1日付で安達京華医師が、10月1日付で石渡景子医師と加治正憲医師が、12月1日付で中村真理医師が着任いたしました。また、5月31日付で畔上達彦医師が、9月30日付で大野恵子医師が、10月31日付で川田一郎医師が退職いたしました。

2023年10月1日付で私が所長を拝命しました。COVID-19の流行は収まりつつも、いろいろと大変な時期ではありましたが、スタッフ一同の努力と関係者の皆様のお力添えのおかげで大きな混乱もなく業務をこなすことができたかと思っています。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。今後も義塾の発展とともに保健管理センターに求められる課題は増え続け、さらに重くなる役割を担うために進化し続けていく必要があるだろうと考えています。関係者の皆様には、引き続きご指導・ご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

なお、今回の年報につきましてもご意見などがありましたら、遠慮なくお寄せください。

I 本編

第1. 大学保健管理業務

第2. 一貫教育校保健管理業務

第3. 感染症対策

第4. 環境衛生業務

第5. 産業保健活動

第6. 教育

第7. 研究

(第8. 会議, 第9. 関連資料は資料編のみ)

第10. 慶應義塾診療所

第1．大学保健管理業務

1. 学生定期健康診断

資料編2(1)「学生定期健康診断実施項目一覧」に、2023年度の本健診で実施された検査項目を示す。本健診は、学校保健安全法施行規則（保安則）第6条第1項の検査項目と第4項の除外可能項目を鑑み、法定項目すべてが満たされている。

しかし、2020年度からCOVID-19流行により、密集形成回避が求められ、2020年度は健診会場への集合は行わず、代わりにWEB問診を行った。2021～22年度には、血圧、視力、内科診察、心電図などを省略、または対象範囲を狭めて健診を再開したが、予約制にしたことと相俟って、密集形成無く健診が行えた。

本年度はCOVID-19が収束傾向にあり、流行前のスタイルでの健診を行った。尚、対象者の少ない信濃町地区は、2020～2022年度も、集合時間の調整によりほぼ例年通りの健診を行うことができた。

資料編2(2)「学生定期健康診断受診状況」に2023年度の本健診受検率を示す。表アに、学部生のデータを学部、学年、男女別に記した。対象者数は28,980人で、受検者は17,616人（受検率60.8%、男子58.7%、女子64.4%）で、昨年全体の受検率61.8%より低下した。但し、例年、受検率が高い医療系学部では、本年も、医学部、薬学部、看護医療学部で夫々、99.3%、91.1%、97.6%だった。大学院修士課程生（同表イ）、大学院博士課程生（同表ウ）、専門職学位課程生（同表エ）の受検率は、夫々、68.3%（昨年：66.3%）、61.8%（55.3%）、53.8%（56.0%）であった。

資料編2(3)「学生定期健康診断の流れ」に本健診後事後措置の流れを記した。このスキームは学校保健安全法第9条および保安則第9条に準じている。必要に応じ、再検査、精密検査、医師面接、外部医療機関紹介などが行われる。本図にあるC判定者数を、資料編2(4)「各検査の管理区分C判定集計」にまとめた。視力C判定者の割合が昨年の半分になった。原因は不明である。

資料編2(5)「学生定期健康診断 生活区分、現病歴、障害者の状況」に生活区分、現病歴、身体障害の観点より何等かの配慮が必要と判断された者の人数を示した。例年とほぼ同等であった。

資料編2(6)「学生定期健康診断 二次検査等フォローアップ件数」に、本健診受検に際し、何らかの二次検査、フォローアップ検査などの管理が必要と判断された者の人数を示した。2021年度と比較して、心エコーを受けた者が減った。血圧のフォローアップ者数が増えたが、これは、省略されていた血圧測定が再開されたことに起因する。

資料編2(7)「学生定期健康診断 結果報告書配布数・WEB閲覧件数」に本健診結果返却の概要を示した。本健診結果返却は本センター各地区の窓口返却と2007年度から開始したWEB閲覧の方法がある。WEB閲覧は2013年度からはスマートフォンでもアクセス可能になった。WEB閲覧開始以降、窓口返却は減り、本年は1件（昨年は6件）になった。WEB閲覧は8,550件（10,475件）であった。

資料編2(9)にWEB問診システムで調査している学生のライフスタイル調査結果を掲載した。昨年と比べ、特段の変化はなかった。

「予約システム」導入前に比べ、各人の健診の所要時間は特段に減っている。

2017年の学部生、大学院修士課程生、大学院博士課程生、専門職学位課程生の健診受診率は夫々87.0%、86.2%、71.9%、80.8%で、そこから漸減傾向にある。その回復は大きな課題であるが、2020年度以降COVID-19流行対応に追われその議論は棚上げになっていた。同感染症は5類になった現在、その議論の再開が望まれる。

（横山裕一）

2. 教職員定期生活習慣病健康診断

(1) 受診状況

2023年度の慶應義塾全体の受診率は94.4%であり、2022年度(95.1%)に比べ0.7%低下した。地区別受診率は芝共立地区、志木地区が100.0%、矢上地区が94.4%、三田地区が95.2%、信濃町地区が94.1%、湘南藤沢地区が94.4%、日吉地区が92.8%であった。一貫教育校所属教職員の受診率は98.8%であった。

(2) 生活習慣病健康診断集計

身長・体重、腹囲、視力、聴力、胸部X線検査、血圧、検尿、心電図、心音の有所見者の割合は2022年度と大きな変化はなかった。その内、視力のC判定(右または左の視力が0.7未満)が11.7%と2023年度も10%を超えていた。一方、2020年度は10%を超えていた、血圧のC判定(収縮期血圧140mmHg以上かつ/または拡張期血圧90mmHg以上)は、2023年度は8.0%であり、2021年度以降10%未満を維持している。

血液検査の有所見者の割合は2022年度と大きな変化はなく、血液検査で異常値が認められる割合が高い検査は脂質関係、肝臓関係、腎臓関係であった。TG300mg/dL以上、またはHDLコレステロール34mg/dL以下、またはLDLコレステロール160mg/dL以上が脂質関係のC判定となるが、男性で12.8%、女性で8.0%、合計で10.2%であった。TB2.5U/L以上、またはAST60U/L以上、またはALT60U/L以上、またはALP136U/L以上、または γ -GTP160U/L以上(男性)、90U/L以上(女性)が肝臓関係のC判定となるが、男性で8.3%、女性で2.7%、合計で5.3%であった。eGFRが59.9mL/min以下が腎臓関連のC判定となるが、男性で7.7%、女性で5.0%、合計で6.2%であった。これらC判定の割合は、男性、女性、合計いずれも2022年度に比べ、脂質関係は低下したが、肝臓関係及び腎臓関係は増加した。

(3) 特定健康診査

40歳以上65歳未満の受診者は3,652人(男性1,816人、女性1,836人)であった。40歳以上65歳未満のメタボリックシンドロームと診断された人は、男性で261人(14.4%)、女性で47人(2.6%)、合計で308人(8.4%)であった。積極的支援レベルが男性で162人(8.9%)、女性で23人(1.3%)、合計で185人(5.1%)であった。動機付け支援レベルが男性で191人(10.5%)、女性で94人(5.1%)、合計で285人(7.8%)であった。

2023年度の特定保健指導の初回指導は71件実施され、2022年度(177件)に比べて減少した。

(4) その他

定期健康診断後の管理状況は、面接指示者1,121人に対し、面接を実施した件数は493人であった。年齢40歳以上の健保加入者は消化器系検査の受検資格があり、希望者は上部消化管検査、腹部超音波検査を受検した。年齢35歳以上の健保加入者は大腸がんスクリーニング(便潜血検査)の受検資格があり、希望者が受検した。

(武田彩乃)

3. その他の活動等

(1) その他の健康診断

2023 年度は、常時深夜業に従事する者等を対象とする特定業務従事者の健康診断を信濃町地区で 2,013 件実施した。また、電離放射線取扱者、特定化学物質取扱者、有機溶剤取扱者、鉛取扱者を対象とする特殊健康診断、病原体・遺伝子組み換え実験業務従事者を対象とする健康診断も実施した。電離放射線取扱者、病原体・遺伝子組み換え実験業務従事者の健康診断の件数は、教職員を中心に信濃町地区で多く、特定化学物質取扱者、有機溶剤取扱者の健康診断の件数は、学生を中心に矢上地区で多かった。

(2) 各種行事等の救護状況

保健管理センターでは、各種行事（入学式、卒業式、入学試験等）の救護活動を行っている。2023 年度の救護件数としては、大学学部一般選抜試験が一番多く、68 件（日吉本部 53 件、三田分室 15 件）であった。

(3) 女性のからだ・男性のからだ相談室、SOGI（性的指向・性自認）相談室

協生環境推進室との共同事業として、教職員・学生を対象に、2022 年 1 月より女性のからだ・男性のからだに関する健康相談を、2023 年 7 月より SOGI（性的指向・性自認）の相談を開始した。からだ相談は慶應義塾大学病院の産婦人科医師・乳腺外科医師・泌尿器科医師が担当し、SOGI 相談は慶應義塾大学病院の精神神経科医師・形成外科医師が担当している。2023 年 4 月から 2024 年 3 月までのからだ相談室利用者数は合計 41 件、2023 年 7 月から 2024 年 3 月までの SOGI 相談室利用者数は合計 6 件であった。

(4) 教職員カウンセリング

教職員健保加入者（信濃町地区を除く）を対象とした教職員カウンセリングが再開され、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの利用者数は合計 55 件であった。

(5) その他の活動

2022 年度に続いて、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた教職員・学生の登校機会が増加した。そのため、2023 年度は、投薬（市販薬）は 23 件、処置（外傷の消毒、湿布等の処置、爪きり使用、検温等）は 574 件であり、2022 年度（投薬 30 件、処置 580 件）とほぼ同等であった。ベッド休養は 495 件で、2022 年度（366 件）に比べ増加した。保健相談等（受付窓口や電話での相談、投薬・処置・ベッド休養が生じない健康相談、保健指導、病院案内等）は 429 件で、2022 年度（539 件）に比べわずかに減少した。

（武田彩乃）

第 2. 一貫教育校保健管理業務

1. 小・中学校

(1) 2023 年定期健康診断のまとめ

ア. 保健統計調査

(ア) 身長

一貫教育小中学校のほぼすべての学年において男女ともに全国平均値(2022 年度)に比べて高かった。

(イ) 体重

男子は小学校において、女子は小中学校において、全国平均値に比べて概ね少ない傾向にあった。

(ウ) 栄養

肥満傾向(肥満度+20%以上)の頻度は、幼稚舎：男 2.3%，女 0.3%，横浜初等部：男 1.3%，女 1.6%，普通部：男 7.8%，中等部：男 6.6%，女 1.7%，湘南藤沢中等部：男 6.7%，女 2.0%で、全国平均値(小学生：男 11.2%，女 8.6%，中学生：男 12.3%，女 8.8%)に比べて少なく、栄養不良(やせ傾向)(肥満度-20%以下)の頻度は、幼稚舎：男 1.9%，女 1.7%，横浜初等部：男 2.6%，女 1.2%，普通部：男 2.8%，中等部：男 4.1%，女 4.9%，湘南藤沢中等部：男 2.7%，女 4.3%で、全国平均値(小学生：男 1.3%，女 1.5%，中学生：男 2.9%，女 3.4%)に比べて同等～やや多かった。

(エ) 視力

裸眼視力 1.0 未満の頻度は、幼稚舎：男 26.0%，女 28.6%，横浜初等部：男 28.5%，女 39.3%，普通部：男 76.0%，中等部：男 65.7%，女 64.2%，湘南藤沢中等部：男 60.4%，女 74.6%で、全国平均値(小学生：37.9%，中学生：61.2%)に比べて、小学生では同等～少ない，中学生では同等～多い傾向であった。

(オ) 歯科

未処置う歯の保有率は、幼稚舎：男 4.0%，女 4.5%，横浜初等部：男 5.2%，女 2.9%，普通部：男 1.8%，中等部：男 2.9%，女 1.0%，湘南藤沢中等部：男 5.5%，女 4.3%で、全国平均値(小学生：男 18.3%，女 17.1%，中学生：男 11.3%，女 11.5%)に比べて概ね少なかった。

イ. 結核健診

計 31 人を対象に精密検査(胸部 X 線検査)を実施した。受検理由の内訳は、BCG 未接種(18 人)、海外結核高蔓延国での居住歴(13 人)であった。最終結果は全員異常なしであった。

ウ. 血液検査結果

2020 年度から感染症対策のため休止していた小学 1 年生の血液検査は、4 年生を対象として再開された。ウイルス抗体価検査では、流行性耳下腺炎抗体陰性者(幼稚舎 48.0%，横浜初等部 38.4%，普通部 52.1%，中等部 52.5%，湘南藤沢中等部 43.2%)、および水痘ウイルス抗体陰性者(幼稚舎 73.2%，横浜初等部 69.7%，普通部 45.0%，中等部 43.2%，湘南藤沢中等部 46.4%)において多かった。

(2) 2023 年度保健室利用状況

年間来室者数はすべての小中学校で昨年度と比べて増加し、特に小学校での増加が目立った。また、新型コロナウイルス感染症予防対策としての登校再開時面接を 2023 年 5 月 7 日で終了した。

(井ノ口美香子)

2. 高校

（1）2023 年度定期健康診断のまとめ

ア．保健統計調査

本年表の執筆時点において、2023 年度の学校保健統計調査（全国）の結果は公表されていないため、2022 年度の学校保健統計調査（全国）の結果と比較した。身長は、高校の男子、女子ともに、全ての学年において、全国平均値と比較し高かった。体重は、高校の男子は、1 年生は全国平均値を下回っていたが、2・3 年生はおおむね全国平均値を上回っていた。高校の女子では、全ての学年で全国平均値を下回った。

イ．生徒定期健康診断受診・管理状況

各高校の受診率はほぼ 100%であった。高等学校では血液検査の実施を見送ったものの、その他の項目については、おおむね例年通り実施できた。再検査対象者の割合は、高等学校と女子高の検尿、志木高と湘南藤沢高等部男子の血圧が昨年度と比較して低下した以外は大きな変化はなかった。

ウ．血液検査結果

異常値を認めた生徒の比率は昨年度と比較してコレステロール値、尿酸値については各高校とも大きな変化はなかった。クレアチニン値の異常については志木高では減少し、女子高では増加した。ヘモグロビン値の異常については女子高では減少し、湘南藤沢高等部女子では増加した。

（2）2023 年度保健室利用状況

保健室利用状況は、各高校とも昨年度と比較して増加した。生徒数の多い高等学校が年間来室者数 1,665 人、一日あたりの平均来室者数 11.3 人で 4 校中一番多かったが、一人あたりの平均年間来室回数は 0.8 回で、志木高の 0.7 回の次に少なかった。

インフルエンザの全国的な流行が再燃したことで、学級閉鎖措置は高等学校では 5 月から翌年 2 月までの間に 30 回、志木高では 9 月から翌年 2 月までの間に 16 回、女子高では 10 月に 1 回実施された。新型コロナウイルス感染症罹患による学級閉鎖措置は、高等学校で 6 月に 2 回、志木高で 5 月から 7 月までの間に 2 回実施された。

精神保健相談に関しては、前年度と比較して、高等学校では事例数はほぼ同数であったが、延べ件数は増加した。志木高では事例数、延べ件数とも減少した。女子高では事例数は減少したが、延べ件数は増加した。湘南藤沢高等部では事例数は増加したが、延べ件数は減少した。相談内容で一番多いものは、高等学校、志木高等学校、湘南藤沢高等部では、学校生活・友人関係で、女子高等学校では性格・生きがいであった。

保健室で対応した面接等の事例に関して、生徒との面接事例は、登校許可面接や身体計測が大半を占めた。教職員との面接事項では、生徒や学校運営に関する相談が多かった。

（森 正明）

第 3. 感染症対策

1. 学校において予防すべき感染症，および院内感染症対応

学校および病院を含む医療施設は，夫々，「学校保健安全法施行規則第 18 条」「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）第 6 条」に則り，施設の感染症対策を行なう義務が課せられている。扱う感染症は，前者では第一～第三種に，後者では一～五類に分類される。

基本的な対策は，感染症に罹患した者の就学・就労制限である。「学校保健安全法第 19 条」に，学校長は必要な場合，感染症に罹患している学生，生徒，児童の出席を停止させること，「学校保健安全法施行規則第 19 条」にはその判断のために学校医からの意見を聴取することが記載されている。一方，「労働安全衛生規則 61 条」は，事業者は，病毒伝播の恐れがある伝染病に罹患した労働者を，産業医や専門医の意見を聞いて出勤停止にできると謳っている。さらに，「感染症法第 18 条」「感染症法施行規則第 11 条」には「都道府県知事は，一類～三類の感染症又は新型インフルエンザ等感染症患者を，病原体を保有しなくなるまでの期間，他者に接触する業務に従事することを禁止する」とあり，2020 年に本症に指定された新型コロナウイルス感染症の出勤停止の判断には行政が関わることもある。しかし，いずれの場合も，復学・復職の諸条件を満たしているかどうかの判断は学校医，産業医，または看護職が行う。本塾保健管理センター（本センター）医師はその学校医，産業医の役割を負い，この感染症罹患学生・職員の復学・復職の許可面接は重要な業務である。

表 1 (1) に 2023 年度に本センターが行った就業・就学停止を解除する登校・就業許可面接回数を記した。アの大学，病院の大学生・教職員，イの一貫教育校の児童・生徒・学生・教職員に分けて記載してある。面接対象者数は昨年に比べ半数以下になっており，2020 年以来猛威を振るっていた COVID-19 がさらに鎮静化してきたことを反映している。実際に 2023 年 5 月 8 日より同感染症は感染症法第 2 類から第 5 類に移行した。

表 1 (2) アに主な感染症毎の就業許可面接回数を示す。尚本表中に示されている COVID-19 への対応数は，同感染症が 2023 年 5 月 8 日から 5 類感染症に変更になってからのものである。昨年に比べ，COVID-19 の対応数が激減した。一方，インフルエンザへの対応は 2021 年度には皆無で，昨年度も 135 例であったが，本年度は 864 例で，COVID-19 の鎮静化とインフルエンザ流行が反比例していることが示されている。

表 1 (2) イには COVID-19 がまだ 2 類感染症と指定されていた時期の同ウイルス対応を示した。

(ア) は同感染症に対する PCR 検査状況で，(イ) はまだ第 2 類であった 5 月 7 日までの就業許可面接数である。

表 1 (3) アに本学一貫教育校の本センターが行った感染症毎の登校・就業許可面接数を示した。特記すべきは，大学，病院と同様，2021 年度は皆無で，2022 年度は 225 件であったインフルエンザ対応が 2023 年度には 3,176 件に増えたことである。このうち教職員への対応は 36 件（1.1%）で，同感染症の流行が児童，生徒中心のものであったことを示す。

表 1 (3) イに本学一貫教育校の本センターが行った新型コロナウイルス感染症対策をまとめたが，2021～22 年度に比べ，かなり減り，これは大学・病院での状況と同様である。

2. 結核対応

表 2 (1) に結核スクリーニングを示す。アの胸部 X 線検査によるスクリーニングは，「学生健診」「教

職員健診」の項を夫々参照されたい。

イにインターフェロノンγ遊離試験（IGRA）の状況として、（ア）（イ）（ウ）に対象者、検査結果、事後措置について記した。2022年度との比較で特記事項はない。

不慮の結核患者への濃厚接触が疑われた場合、感染症法 17 条を根拠に追加の結核接触者健康診断を行うが、その状況を表 2（2）に記した。本健診では、結核菌の濃厚接触者を特定し、IGRA により排菌者からの感染の有無を調べる。アに新規の対象者を示した。2023 年度は、病院がある信濃町で 2 グループ 112 人、湘南藤沢地区で 43 名が新規の対象となった。イに継続の対象者を示したが、信濃町で 4 名が 2022 年度から経過観察を受けていた。

3. ワクチンで予防できる感染症対応

麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘ウイルス（MMRV）対応、B 型肝炎ウイルスワクチン対応、インフルエンザワクチン対応を示す。

（1）の MMRV 対応であるが、アに MMRV のワクチン接種状況を示す。（ア）はワクチンの対象者、（イ）に各分室でのワクチン接種数を示した。日吉（本部）、湘南藤沢分室、信濃町分室の学生は夫々、医学部・薬学部、看護医療学部、医学部の学生である。（ウ）に接種したワクチンの内訳を示したが、流行性耳下腺炎と水痘のワクチンが多かった。昨年同様、麻疹、風疹の接種は少なく、これは、厚生労働省および文部科学省の推奨により入学前の MR ワクチン接種が浸透したためと推察している。

イは MMRV の抗体価検査で、（ア）に示すように一貫教育校の児童、生徒のデータで、（イ）にその結果を示す。陽性率は例年同様、麻疹、風疹は高いが、水痘、流行性耳下腺炎は 50%程である。

（2）に B 型肝炎ウイルス対応を示したが、アは同ウイルスワクチン接種状況である。（ア）に示した対象者（医学部、薬学部、看護医療学部の学生、信濃町分室の教職員では、（イ）（ウ）に示したワクチン接種数とその内訳は昨年とほぼ同様であった。

イは同ウイルスワクチン接種後の抗体であるが、（ア）に示した HBs 抗体陽性率は昨年とほぼ同様であった。

（3）にインフルエンザウイルス対応について記した。信濃町地区、即ち病院の教職員、学生に対して、毎年、ワクチン接種を施行しているが、昨年は 3,830 人に接種し、本年も 3,791 人に接種した。

4. 血液曝露対応

信濃町地区（主に病院）で教職員、学生等が血液曝露を被った場合、宿主の感染状況、血液曝露の状況を勘案し、B 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、ヒト免疫不全ウイルスへの感染症への発症予防や感染の早期発見を目的とした対応を行う。年間の動向は昨年とほぼ同様であった。

5. 腸管感染症対応

（1）の便培養検査であるが、医療系学部生実習前に、実習先の病院から指示があった場合に行う。本年は湘南藤沢地区のみで実施し、赤痢菌、腸管出血性大腸菌 O-157、コレラ菌、サルモネラ菌を検査したが全例陰性であった。

（2）のヘリコバクターピロリ菌抗体測定であるが、教職員健診で 49 歳の者を対象に行っている。詳細は教職員健診の項に記した。

（横山裕一）

第4. 環境衛生業務

学校における環境衛生管理については、学校保健安全法（2009年4月1日施行）の規定に基づき、「学校環境衛生基準」が定められている。施行後5年を経過し、環境衛生に関する新たな知見や児童生徒等の学校環境の変化を踏まえて検討が行われ、一部改正された（2018年4月1日施行）。これらの基準に基づいて、キャンパス衛生管理者、保健管理センター医師および保健師が、校内巡視および環境測定を行った。

1. 教室等の調査

(1) 実施項目

ア 換気及び保温等および空気清浄度

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| (ア) 換気 | (キ) 二酸化炭素 |
| (イ) 湿度 | (ク) 揮発性有機化合物※ ¹ |
| (ウ) 相対湿度 | ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, |
| (エ) 浮遊粉じん | パラジクロロベンゼン, エチルベンゼン, |
| (オ) 気流 | スチレン |
| (カ) 一酸化炭素 | (ケ) ダニまたはダニアレルゲン※ ² |

イ 採光

- | | |
|--------|----------|
| (ア) 照度 | (イ) まぶしさ |
|--------|----------|

ウ 騒音

- | |
|-----------|
| (ア) 騒音レベル |
|-----------|

エ 校内巡視

※¹ 2006年度より管財部から業務移行された。

※² 2010年度より実施

(2) 実施日程（大学・一貫教育校の各「年間主要業務」の頁を参照）

前期 5～8月, 後期 10～1月に実施（年2回）した。

(3) 結果・事後措置概要

ア 温熱環境

季節により、温度や湿度が基準値を外れる教室が散見された。教室使用时には空調設備や換気扇、加湿器を適切に使用し、教室内の環境を保つよう指導した。

イ 換気・空気清浄度

二酸化炭素濃度が基準値内高値あるいは基準値を上回る教室があるため、定期的に換気扇を稼働させる、窓や出入口のドアを開放するなどの対策について指導した。また二酸化炭素モニターを設置している場合には適宜確認するよう指導した。

ウ 照度・まぶしさ

照度は基準値内であったが、太陽光により机上面の見え方が妨害されている教室があり、必要に応じてカーテンやブラインドを閉じるよう助言した。

エ 騒音

一部の教室で近隣教室での児童生徒の活動により基準値を上回る教室があったが、概ね問題なかった。

オ ダニまたはダニアレルゲン

問題はなかった。

カ 揮発性有機化合物

問題はなかった。

キ その他

荷物や器材の積み上げ、ゴミや私物の散乱が認められる教室があるため、教室環境の美化および整理整頓に努め、緊急時避難経路確保を行うよう指導した。また貴重品の管理についても注意を促した。

2. 食堂の調査

学校保健安全法に基づいて、食堂環境衛生検査ならびに食堂微生物検査を行い、関係所属長へ報告と改善依頼を行うとともに、食堂管理責任者へ指導を行った。

(1) 実施項目

ア 厨房巡視・聞き取り調査

キャンパス衛生管理者、保健管理センター医師および保健師が、担当地区の食堂を巡視し、食堂施設の状況、設備およびその取扱い状況、食品の取り扱いを含む調理場内の衛生状況、従事者の衛生管理状況、検食の状況等を調査した。

調理場換気扇の錆や油汚れ、設備の破損が認められた地区があり、定期的な清掃と速やかな修繕を指導した。冷蔵庫の温度管理が徹底されていない食堂施設があり、指導を行った。調理場内の頭上の棚に未使用のガラスコップやカトラリー、調理器具が置かれている地区があり、落下の危険性もあることから食堂施設内の整理整頓について指導した。また調理場内の室温が高い地区については、作業者の熱中症や細菌・ウイルス繁殖の原因にもなることから、空調設備の充実や網戸付き窓の開放により気流を高め空調管理に努めるよう指導した。

イ 微生物検査

冷蔵庫、まな板、作業者手指、台ふきん、直接喫食食品、飲料水、空中落下菌等

（一般細菌、大腸菌、黄色ブドウ球菌、大腸菌群の培養検査）の検査を行った。

(ア) ふき取り検査で複数の食堂施設から一般細菌、大腸菌群、一部の施設から大腸菌、黄色ブドウ球菌が検出された。0-157 は陰性であった。汚染された手指から食材への二次汚染の可能性がある為、手洗い方法を見直して、手指の清潔保持の徹底に努めるよう指導した。

(イ) 台ふきん、まな板では複数の食堂施設で一般細菌、一部で大腸菌が検出された。台ふきんの頻回の交換と消毒、ふきんの用途の明確な区別を徹底する必要について指導した。

(ウ) 加熱した食品から一般細菌が検出された施設があり、清潔保持の徹底を指導した。

(エ) 一部の施設で基準範囲内ではあるが空中落下菌を認めた。換気などの影響も考えられるが、引き続き空気調節フィルター清掃や24時間換気の励行を指導した。

（武田彩乃）

第5. 産業保健活動

労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に基づき、次の活動を行っている。カッコ内は該当法令。

1. 労働衛生管理体制（労働安全衛生法第12条及び第13条）

慶應義塾では、事業場として大きく7地区(日吉, 三田, 芝共立, 湘南藤沢, 矢上, 信濃町, 志木)に分け、各地区に統括安全衛生管理者、産業医、衛生管理者を置き、教職員の健康管理等を実施している。

2. 衛生委員会（労働安全衛生法第18条）

7地区に衛生委員会が設置され、教職員の健康障害防止の基本対策などを調査・審議している。保健管理センターは各地区の登録産業医と衛生管理責任者等が産業保健の専門家として参加している。

3. 職場巡視（労働安全衛生規則第15条）

衛生委員会の活動の一環として7地区において、職場巡視を実施し、職場における安全確保状況、換気状況等を調査し、教職員の健康障害を防止するための必要な措置を講じるようにしている。保健管理センターのメンバーは施設管理を担当する管財部門のメンバーとともに職場巡視のメンバーとして参加している。

4. 就業区分判定（労働安全衛生法第66条第1, 2, 3項）

雇入時の健康診断, 定期健康診断を実施している。雇入時の健康診断受診者数, 定期健康診断受診者数はともに信濃町地区が最も多い。電離放射線取扱者, 特定化学物質取扱者, 有機溶剤取扱者, 鉛取扱者に対して特殊健康診断を, 病原体・遺伝子組換え実験業務従事者に対しても健康診断を実施している。特殊健康診断判定件数, 病原体・遺伝子組換え実験業務従事者健康診断判定件数ともに, 信濃町地区が一番多い。

5. 産業医面接（労働安全衛生規則第14条）

職場の上長や本人からの申し出があった場合と, 長時間労働を行った教職員に対して, 産業医による面接を行っている。具体的には, 内科疾患または精神科疾患による休職後復職者, 過重労働者, メンタル不調者等を対象に実施し, 必要に応じて, 総括安全衛生管理者に対して勧告し, 又は衛生管理者に対して指導し, 若しくは助言を行っている。

6. 労働安全衛生教育（労働安全衛生規則第59条）

教職員に対し, その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を実施している。具体的には, 電離放射線使用の注意点, 有機溶剤使用の注意点を使用者に周知している。

7. 労働者の心の健康保持（労働安全衛生法第66条）

職業性ストレス簡易調査票（57項目）によるストレスチェックを実施し, 教職員の心の健康保持を図っている。

(西村知泰)

第6．教育

1. 大学講義

保健管理センター設置講座では、非医療系学部の学生を対象として生活習慣病、感染症、飲酒の問題、メンタルの問題等、現代社会と深く関わりのある代表的な疾病について、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式の講義を行っている。将来、ヘルスケア関連企業に就職する学生の入門講義になるばかりでなく、健康的な生活を理解し、実践するための保健教育を目的としている。

また、体育研究所設置講座、医学部講座、看護医療学部講座、学生総合センター設置科目、大学院健康マネジメント研究科においても講義を行い、通信教育課程についてはテキスト科目のレポート添削、科目試験のほか、夏期スクーリングも担当している。

2. 予防医療センター

保健管理センター専任医師は人間ドック受診者の当日結果説明および生活指導を交代で担当している。循環器ドック（心血管ドック）および上部消化管内視鏡検査については、結果レポートを作成している。

3. 集団保健衛生教育

(1) 衛生講習会

一貫教育校及び大学における文化祭、イベント等で、食品を扱う模擬店を出店する際には、保健管理センターが細菌性食中毒予防のため、①食中毒について②食材の取扱い方③手洗いの方法④速乾性擦式手指消毒薬およびアルコール含有ウェットティッシュの使用方法等について指導を行っている。また、酒類を提供する予定のある大学生に対しては飲酒についての注意喚起も行っている。

(2) BLS（一次救命処置；Basic Life Support）講習会、AED（自動対外式除細動器；Automated External Defibrillator）講習会

慶應義塾に所属している学生、教職員および委託職員に対して救急蘇生法とAEDの使用法についての説明、指導を行っている。新型コロナウイルス感染症対策により講習会実施が減少していたが、2023年度は本部（日吉）にて3回、三田分室にて4回、湘南藤沢分室にて17回、矢上分室にて1回実施した（受講人数合計160人）。

(3) 一貫教育校におけるセミナー・保護者向け講演会

小児・若年者の肥満、高血圧などの生活習慣病は高率に成人の生活習慣病に移行することが知られている。そのため小児・若年者の生活習慣の修正は重要であり、一貫教育校では生活習慣是正のためのセミナーを行っている。また、生徒・保護者・教員を対象に脳震盪・精巣捻転症・熱中症・インフルエンザ等の感染症・心の問題・スポーツ障害等に関する講演会も行っている。

(4) 一貫教育校における授業

一貫教育小中学校における特別授業に加え、2023年度より湘南藤沢高等部において保健の通年授業を担当することになった。

（森 正明）

第7. 研究

保健管理センターは、慶應義塾の研究所附属機関に位置づけられ、大学・大学院生、小中高一貫教育校児童・生徒、教職員の健康管理および感染症等の管理業務に加えて、健康の保持増進のための教育や研究活動を担当している。

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

ア 慶應義塾から、広瀬寛の「肥満やインスリン抵抗性病態の研究・教育・臨床への寄与」についての功績に対して、義塾賞が贈られた（2023年11月10日）。

(2) 著書・翻訳書・論文・学会発表

2023年度に保健管理センター教職員が執筆した著書は1編、筆頭著者で発表した論文は英文誌2編、和文誌24編であった。保健管理センターの機関誌である「慶應保健研究 第41巻第1号」（2023年9月30日発行）には、学校保健や健康管理等に関する原著論文3編、総説3編、解説6編が掲載された。2023年度に保健管理センター教職員が筆頭演者となった学会発表は、国際学会2題、国内学会29題であった。主な学会として、第61回全国大学保健管理研究集会（2023年10月、会場開催、一部オンデマンド配信）では、一般演題1題、第69回日本学校保健学会学術大会（2023年11月、会場開催、一部オンデマンド配信）では、一般演題3題が発表された。

2. 保健管理センター研究会

2023年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により講師を招聘しての講演会は開催しなかったが、9回開催した。保健管理センター教職員による研究発表、第61回全国大学保健管理研究集会および第69回日本学校保健学会学術大会の予演会などをWEB開催した。

3. 保健管理センター研修会

2023年度は、実施しなかった。

(井ノ口美香子)

（第 8. 会議, 第 9. 関連資料は資料編のみ）

第10. 慶應義塾診療所

診療所長の交代があり、日吉診療所長だった広瀬医師が昨年 10 月から三田診療所長へ、西村知泰医師が日吉診療所長となった。また、診療所薬剤師は三田と湘南藤沢診療所で各 1 名の交代があった。日吉・三田・湘南藤沢・矢上診療所の受診者数は合計 2,912 件（学生 1,441 件、教職員 1,469 件、その他 2 件）で、前年度と比較し 237 件増だった。学生が 226 件増で、教職員はほぼ同じであった。新型コロナウイルス感染症も 5 類に移行し対面授業になったことなどで、学生の受診者が増加したと考えられる。

精神科は矢上診療所を除く 3 診療所で診療を行っている。受診者数の合計は 1,034 件（学生 864 件、教職員 170 件）で、昨年より 127 件増。学生は約 20%増加したが、教職員は微減であった。

メンタル不調を訴える学生が年々多くなってきている。信濃町分室は 23 件増で、前年比 14%増である。こちらは教職員が増加している。

（中島清隆）

Ⅱ 資料編 第7. 研究

1. 保健管理センター教職員研究業績
2. 保健管理センター研究会
3. 保健管理センター研修会

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

広瀬 寛

1) 義塾賞

受賞理由：肥満やインスリン抵抗性病態の研究・教育・臨床への寄与

受賞日：2023年11月10日

(2) 著書・翻訳書・論文・学会発表

ア 著書

1) 康井洋介：学校での感染対策. インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症診療ガイド 2023-24. 日本医事新報社, 143-148, 2023

イ 論文

1) Azegami T, Uchida K, Murai-Takeda A, Inokuchi M, Mori M, et al. : Secular trends and age-specific distribution of blood pressure in Japanese adolescents aged 12-18 years in 2000-2019. *Hypertension Research*, 47(1) : 184-194, 2024

2) Azegami T, Uchida K, Murai-Takeda A, Inokuchi M, Mori M, et al. : Pediatric blood pressure category predicts longitudinal blood pressure change in adolescence and early adulthood. *Pediatric Research*, 94(5) : 1731-1737, 2023

3) Cui W, Ishikawa(Ishiwata) K, et al. : Diet-mediated constitutive induction of novel IL-4+ ILC2 cells maintains intestinal homeostasis in mice. *J Exp Med*, 220(8) : e20221773, 2023

4) Horiuchi K, Kawada I, et al. : Pre-existing

Interstitial Lung Abnormalities and Immune Checkpoint Inhibitor-Related Pneumonitis in Solid Tumors: A Retrospective Analysis. *Oncologist*, 29(1) : e108-e117, 2024

5) Ishida H, Uchida K, et al. : Unique pulmonary hypertensive vascular diseases associated with heart and lung developmental defects. *J Cardiovasc Dev Dis*, 10(8) : 333, 2023

6) Jo R, Murai-Takeda A, et al. : Mechanisms of mineralocorticoid receptor-associated hypertension in diabetes mellitus: the role of O-GlcNAc modification. *Hypertens Res*, 6(3) : 19-31, 2023

7) Kishimoto T, Sado M, et al. : Live Two-way Video Versus Face-to-Face Treatment for Depression, Anxiety, and Obsessive-Compulsive Disorder: A 24-Week Randomized Controlled Trial. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, DOI: 10.1111/pcn.13618, 2023

8) Misawa K, Nishimura T, et al. : Inactivation of nontuberculous mycobacteria by gaseous ozone treatment. *J Infect Chemother*, 29(6) : 628-630, 2023

9) Morita A, Nishimura T, et al. : Longitudinal significance of six-minute walk test in patients with nontuberculous mycobacterial pulmonary disease: an observational study. *BMC Pulm Med*, 23(1) : 247. doi: 10.1186/s12890-023-02528-y, 2023

10) Nagaoka M, Sado M, et al. : Economic Evaluation Alongside a Randomized Controlled Trial of Mindfulness-Based Cognitive Therapy in Healthy Adults. *Psychol Res Behav Manag*, 16 : 2767-2785, 2023

11) Nakagawara K, Kawada I, et al. : Longitudinal long COVID symptoms in Japanese

- patients after COVID-19 vaccinations .
Vaccine X, 15 :100381, 2023
- 12) Nakayama T, Azegami T, et al. : A systematic review and meta-analysis of the clinical impact of stopping renin-angiotensin system inhibitor in patients with chronic kidney disease. Hypertension Research, 46(6) :1525-1535, 2023
- 13) Ozawa T, Kawada I, et al. : Calcium channel blockers may reduce the development of long COVID in females . Hypertens Res , doi: 10.1038/s41440-023-01501-w, 2023
- 14) Sunata K, Kawada I, et al. : Asthma is a risk factor for general fatigue of long COVID in Japanese nation-wide cohort study. Allergol Int, doi: 10.1016/j.alit.2023.11.003, 2023
- 15) Tagi K, Kawada I, et al. : Clinical features of Japanese patients with gastrointestinal long-COVID symptoms. JGH Open, 7(12) : 998-1002, 2023
- 16) Tanaka C, Sado M, et al. : Impact of continued mindfulness practice on resilience and well-being in mindfulness-based intervention graduates during the COVID-19 pandemic: A cross-sectional study. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, 2(3) : <https://doi.org/10.1002/pcn5.132>, 2023
- 17) Terai H, Kawada I, et al. : Comprehensive analysis of long COVID in a Japanese nationwide prospective cohort study. Respir Investig, 61(6) : 802-814, 2023
- 18) Thapa J, Nishimura T, et al. : Characterization of DNA Gyrase Activity and Elucidation of the Impact of Amino Acid Substitution in GyrA on Fluoroquinolone Resistance in Mycobacterium avium. Microbiol Spectr , 11(3) : e0508822 . doi: 10.1128/spectrum.05088-22, 2023
- 19) Uwamino Y, Nishimura T, et al. : Humoral and cellular immune response dynamics in Japanese healthcare workers up to six months after receiving a third dose of BNT162b2 monovalent vaccine. Vaccine, 41(9) :1545-1549, 2023
- 20) Watase M, Kawada I, et al. : Cough and sputum in long COVID are associated with severe acute COVID-19: a Japanese cohort study. Respir Res, 24(1) : 283, 2023
- 21) Yoshida Y, Uchida K, et al. : A genetic and developmental biological approach for a family with complex congenital heart diseases-evidence of digenic inheritance. Front Cardiovasc Med, 10 : 1135141, 2023
- 22) 井ノ口美香子, 他 : 健康な成長の観点から見た成長曲線の使い方あるいは BMI (Body Mass Index) の変化に関する観察研究のレビュー - 小児の体格指標の使用に関する国際的現状の概要 - 厚生労働行政推進調査事業費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 日本人の食事摂取基準 (2025 年版) の策定に資する各栄養素等の最新知見の評価及び代謝性疾患の栄養評価に関する研究 (22FA2002) 令和 4 年度 総括・分担研究報告書, 1-13, 2023
- 23) 井ノ口美香子 : 子どもの貧困と栄養. 慶應保健研究, 41(1) : 21-25, 2023
- 24) 井ノ口美香子 : 学校が知っておきたい児童生徒のやせと健康. 会報 学校保健, 362 : 10-11, 2023
- 25) 太田悠木, 石川 (石渡) 景子, 他 : オルガノイドを用いたヒト細胞の遺伝学的細胞系譜解析. 感染・炎症・免疫, 53(1) : 31-40, 2023
- 26) 内田敬子, 他 : 「いのちの教育」を目指した学校・医療者授業連携—今実践のとき—. 慶應保健研究, 41(1) : 61-69, 2023
- 27) 久根木康子, 高橋綾, 外山千鈴, 長井瑠菜, 當仲香, 渡辺沙也佳, 森正明, 横山裕一, 他 : 本学看護学部における麻疹・流行性耳下腺炎・風

疹・水痘に関する感染対策のための IT 化ベースの新しい管理システムの確立. 慶應保健研究, 41(1) : 37-42, 2023

28) 佐渡充洋 : マインドフルネス. カレントセラピー, 41(1) : 66, 2023

29) 佐渡充洋 : マインドフルネス療法は他の精神療法と何が違うかー東洋と西洋の異なる世界観の creative fusion は成立するのかー. 精神科治療学, 38(1) : 17-22, 2023

30) 佐渡充洋 : マインドフルネス認知療法. 精神療法, 49(1) : 21-26, 2023

31) 佐渡充洋 : マインドフルネス療法の現在地と今後の展望. 最新精神医学, 38(3) : 189-194, 2023

32) 佐渡充洋 : マインドフルネス認知療法. 精神療法 グループで日常臨床を変える, 増刊第 10号 : 92-97, 2023

33) 佐渡充洋 : マインドフルネスの視点から見たストレスとの関わり方. 商工ビジネスデータ, 421 : 1-9, 2023

34) 佐渡充洋 : 精神医療、精神保健におけるマインドフルネス. 福岡行動医学雑誌, 29(1) : 43-46, 2023

35) 佐渡充洋 : 適応障害の文脈におけるマインドフルネス認知療法. 医学のあゆみ, 287(4) : 259-262, 2023

36) 佐渡充洋 : マインドフルネスを叶える睡眠. 三田評論, 1283 : 60-61, 2023

37) 佐渡充洋 : マインドフルネス認知療法. 臨床精神薬理, 27(1) : 67-73, 2023

38) 佐渡充洋 : 適応障害におけるマインドフルネス療法. 精神科治療学, 39(1) : 41-45, 2023

39) 篠原尚美 : 小児における脳機能発達の神経基盤. 慶應保健研究, 41(1) : 77-79, 2023

40) 清奈帆美, 後藤伸子, 當仲香, 齋藤圭美, 久根木康子, 澁谷麻由美, 松本可愛, 高橋綾, 外山千鈴, 森正明 : 2016-2022 年度の 19 歳大学生の BMI の減少についてーCOVID-19 パンデミックによる影響をふまえてー. 慶應保健研究, 41(1) : 43-48, 2023

41) 田澤雄基, 佐渡充洋 : メンタルヘルス領域におけるソーシャルイノベーション. 認知療法研究, 16(1) : 51-60, 2023

42) 當仲香, 澁谷麻由美, 外山千鈴, 松本可愛, 齋藤圭美, 清奈帆美, 久根木康子, 高橋綾, 牧野伸司, 武田彩乃, 西村知泰, 横山裕一, 広瀬寛, 森正明 : 電子 (DICOM 形式) データを用いた心電図判定による健康診断システムの構築. 慶應保健研究, 41(1) : 87-93, 2023

43) 長島由佳 : 日本における若年女性のやせに関する諸問題 ー生活習慣病を中心にー. 慶應保健研究, 41(1) : 71-76, 2023

44) 伴英子, 康井洋介 : 日本とシンガポールの新型コロナウイルス感染症対策についてー2 国で新型コロナウイルス感染症診療を経験した小児科医による考察ー. 慶應保健研究, 41(1) : 81-86, 2023

45) 武藤志保, 畔上達彦, 西村知泰, 佐藤幸美子, 室屋恵子, 河野恵梨子, 飯高礼菜, 福富千尋, 武田彩乃, 後藤伸子, 森正明 : 高等学校における脳しんとうの管理 (第 3 報). 慶應保健研究, 41(1) : 49-54, 2023

46) 森正明, 西村知泰, 川田一郎, 齋藤圭美 : 学校感染症登校許可証明書の運用状況と改訂についてー信濃町地区を除く学生・教職員用ー. 慶應保健研究, 41(1) : 55-59, 2023

47) 康井洋介 : 子宮頸がん予防のためのヒトパピローマウイルスワクチンに関する我が国の歴史, 現状, 接種率向上のための提言; 情報開示の重要性. 慶應保健研究, 41(1) : 27-35, 2023

48) 山田成志, 佐渡充洋 : マインドフルネス介入の職場における活用可能性. 産業精神保健, 31(3) : 121-126, 2023

49) 横山裕一 : ミトコンドリアの代謝系から考えるアルコール関連疾患. 慶應保健研究, 41(1) : 7-19, 2023

50) 吉田祐, 内田敬子, 他 : 肺動脈性肺高血圧症における新たな分子メカニズムの解明. 循環器内科, 94(1) : 84-89, 2023

ウ 学会発表

- 1) 秋山勇人, 川田一郎, 加治正憲, 他: 家族経営味噌醸造従事者に発症した麹菌 (*Aspergillus oryzae*) への即時型アレルギーの1例 第53回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会 2023
- 2) 畔上達彦: 腎病理企画 腎診断における貴重な50の質問 血管性疾患 第53回日本腎臓学会東部学術大会 2023
- 3) 畔上達彦, 武田彩乃, 他: 日本人青年の20年間における血圧経年変化および年齢別血圧分布に関する検討 第45回日本高血圧学会総会 2023
- 4) 井ノ口美香子: 子どもの貧困と栄養 第126回日本小児科学会学術集会 2023
- 5) 井ノ口美香子: 小児肥満に対応した栄養学認定臨床栄養医東京研修会 2023
- 6) 井ノ口美香子: 遺伝カウンセリングロールプレイ 新生児の性別決定 第27回小児内分泌専門セミナー 2023
- 7) 井ノ口美香子, 長島由佳, 他: 「不健康やせ」のスクリーニングのための BMI SDS 基準の設定—モデル解析による検討 第2報 第56回日本小児内分泌学会学術集会 2023
- 8) 井ノ口美香子: 肥満・やせ・栄養・脂質代謝 (Year Book) 第56回日本小児内分泌学会学術集会 2023
- 9) 井ノ口美香子: やせと肥満と心身症 第17回日本小児心身医学会東北地方会 2023
- 10) Uchida K, et al.: Exploring Oligogenic Inheritance of Complex Congenital Heart Diseases Using Trio-Based Sequencing and Mouse Model Approaches. 28th Weinstein Cardiovascular Development and Regeneration Conference 2023
- 11) 内田敬子, 井ノ口美香子, 篠原尚美, 河津桃子, 長島由佳, 康井洋介: 学校医による小中学生に向けた健康情報の提供 第69回日本学校保健学会学術大会 2023
- 12) 内田敬子, 他: 先天性心疾患に伴う区域性肺高血圧症に対する薬物治療効果の検討 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会 2023
- 13) 内田敬子, 他: 区域性肺高血圧症に対する肺高血圧治療薬の効果の違い 第8回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2023
- 14) 内田敬子, 他: 小児循環器医と学校教諭との授業連携実践例 第126回日本小児学会学術集会 2023
- 15) 岡田真彦, 川田一郎, 他: COVID-19 罹患後症状としての上気道症状の解析 第63回日本呼吸器学会学術講演会 2023
- 16) 木下雄仁, 川田一郎, 他: 当院での肺癌症例に対するNGS検査実施状況 第63回日本呼吸器学会学術講演会 2023
- 17) 木村奈々, 康井洋介, 井ノ口美香子, 内田敬子, 長島由佳, 篠原尚美, 河津桃子, 徳村光昭: 中学生女子のHPVワクチン接種状況 第69回日本学校保健学会学術大会 2023
- 18) 後藤伸子, 清奈帆美, 武田彩乃, 広瀬寛, 森正明: 大学生健康診断におけるBMI分類による正常血圧群の占める割合の経年推移 第44回日本肥満学会・第41回日本肥満症治療学会学術集会合同学会 2023
- 19) 佐渡充洋: マインドフルネス認知療法 うつ病治療への次なる期待 第119回日本精神神経学会学術総会 2023
- 20) 佐渡充洋: 企業や大学における復職支援プロセスの実際 第119回日本精神神経学会学術総会 2023
- 21) Sado M: How to respond to stress? Mindfulness Perspective The Joint Congress if ICOH-WOPS and APA-PFAW 2023
- 22) 佐渡充洋: マインドフルネス認知療法の臨床での活用と課題 第23回日本認知療法・認知行動療法学会 2023
- 23) 佐渡充洋: マインドフルネス認知療法—特に後半のセッションに焦点を当てて 日本マイン

ドフルネス学会 第 10 回大会 2023

24) 佐渡充洋, 他: マインドフルネス認知療法—
脱中心化をどのように進めるか。理論と実践の
両面からアプローチする— 第 23 回日本認知療
法・認知行動療法学会 2023

25) 佐藤武志, 井ノ口美香子, 他: 完全型アンド
ロゲン不応症における小児期の鼠径ヘルニア累
積罹患率 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会
2023

26) 澁谷麻由美, 當仲香, 松本可愛, 齋藤圭美,
久根木康子, 清奈帆美, 高橋綾, 西村知泰, 広瀬
寛, 牧野伸司, 森正明: 画像データを用いた心電
図検査管理について 第 61 回全国保健管理研究
集会 2023

27) 島村莉奈, 西村知泰, 他: Mycobacterium
abscessus のコロニー形態は subinhibitory
dose の抗菌薬投与によって変化する 第 70 回
日本化学療法学会東日本支部総会・第 72 回日本
感染症学会東日本地方会学術集会 合同学会
2023

28) 清奈帆美, 後藤伸子, 當仲香, 澁谷麻由美,
齋藤圭美, 久根木康子, 松本可愛, 高橋綾, 外山
千鈴, 広瀬寛, 森正明: 大学生の 10 年間の BMI
の変化 第 61 回全国大学保健管理研究集会
2023

29) 高岡初誉, 川田一郎, 他: 第 1 波から第 3 波
までの COVID-19 罹患後症状の比較 第 63 回日
本呼吸器学会学術講演会 2023

30) 武田彩乃, 大野恵子, 後藤伸子, 畔上達彦,
西村知泰, 川田一郎, 牧野伸司, 広瀬寛, 横山
裕一, 森正明: 新型コロナウイルス感染症流行
による休校措置が高校生の身体に及ぼした影響
第 120 回日本内科学会総会・講演会 2023

31) 長尾元太, 西村知泰, 他: CFTR バリエントを
有する日本人集団肺非結核性抗酸菌 (NTM) 症・気
管支拡張症 (BE) の臨床的特徴の検討 第 64 回日
本呼吸器学会学術講演会 2023

32) 永岡麻貴, 佐渡充洋, 他: 健常成人を対象と
したマインドフルネス認知療法の費用対効果研

究 第 23 回日本認知療法・認知行動療法学会
2023

33) 長島由佳, 井ノ口美香子, 他: やせの若年成
人男性における小児期からの BMI SD スコアの縦
断的解析 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会
2023

34) 長島由佳, 井ノ口美香子, 他: やせの若年成
人男性における 13 歳以降の BMI SDS 低下に対す
る思春期の身長・体重増加の影響 第 34 回日本
成長学会学術集会 2023

35) 中道蘭, 畔上達彦, 他: NKG2D シグナルを介
した DNA 損傷ポドサイトと CD8+T 細胞のクロス
トークの慢性腎臓病における役割 第 66 回日本
腎臓学会学術総会 2023

36) 中村真理, 畔上達彦, 他: 当院の腎代替療法
選択外来の現状と今後の課題 第 68 回日本透析
医学会学術集会・総会 2023

37) 中山堯振, 畔上達彦, 他: 慢性腎臓病患者に
おけるレニン-アンジオテンシン系阻害薬の中
止が及ぼす臨床的影響に関するメタ解析 第 66
回日本腎臓学会学術総会 2023

38) 中山堯振, 畔上達彦, 他: 慢性腎臓病患者に
おけるレニン-アンジオテンシン系阻害薬の中
止がもたらす臨床的影響に関する系統的レビュー
とメタ解析 第 45 回日本高血圧学会総会
2023

39) 西村知泰: 特殊病態下での抗微生物薬の適正
使用 肺非結核性抗酸菌症 第 97 回日本感染症
学会総会・学術講演会・第 71 回日本化学療法学
会学術集会合同学会 2023

40) Hamamoto J, Kawada I, et al.: A Patient-
derived Lung Cancer Organoid Library Reveals
Targetable Wnt Dependency in Lung Adenocarcinoma
The 41st Sapporo International Cancer Symposium
(SICS2023) 2023

41) 広瀬寛, 森正明, 他: 人間ドックにおける内
臓脂肪・皮下脂肪面積、HOMA-R や生活習慣など
と血圧状態との関連 第 96 回日本産業衛生学会
2023

42) 三澤可奈, 西村知泰, 他: 非結核性抗酸菌に対するオゾンガスの殺菌効果 第97回日本感染症学会総会・学術講演会・第71回日本化学療法学会学術集会合同学会 2023

43) 三澤可奈, 西村知泰, 他: Mycobacterium abscessus complex に対する Nacubactam と β ラクタム薬2剤併用の有効性評価 第70回日本化学療法学会東日本支部総会・第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会 合同学会 2023

44) 山田成志, 佐渡充洋, 他: 復職面談時に簡易的に認知行動療法を導入し再発予防に寄与した一例 第23回日本認知療法・認知行動療法学会 2023

45) 康井洋介, 井ノ口美香子, 内田敬子, 長島由佳, 篠原尚美, 河津桃子, 徳村光昭: 小中学校における保護者の記載した書類を用いた季節性インフルエンザの登校許可に関する検討 第70回日本小児保健協会学術集会 2023

46) 康井洋介, 井ノ口美香子, 内田敬子, 長島由佳, 篠原尚美, 河津桃子, 武田彩乃, 後藤伸子, 徳村光昭: 学校における動画を用いた熱中症予防啓発活動に関する実践報告 第69回日本学校保健学会学術大会 2023

47) 吉川万衣子, 西村知泰, 他: Mycobacterium avium complex に対する β ラクタム薬2剤併用の有効性評価 第70回日本化学療法学会東日本支部総会・第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会 合同学会 2023

編集後記

慶應義塾大学保健管理センター年報 2023 年度版が完成いたしました。

2023 年度も大きなトラブルもなくセンターを運営出来たことは、ご支援、ご協力をいただいた関係者の皆様のお陰であり、この場を借りて感謝申し上げます。

今年度の大きな出来事として、新型コロナウイルス感染症が「感染症法に基づく分類」で 2 類相当から 5 類に見直されたことです。約 4 年間、感染者へのヒアリングとフォローが大きな負担となっていました。この業務からスタッフが解放されたことで、とても安心したのを覚えています。特に、一貫教育校などの一人部署のスタッフは、生徒の感染症の把握とフォローは当然行いますが、業務負担が多い中、自身が感染してはならないという責任感で、相当なプレッシャーがあったことは想像に難くありません。

4 月の学生健診では、初めて日吉記念館を全館使用し、期間を 4.5 日に短縮、1 日 2,500 人規模で実施しました。委託業者もこの規模の健診は経験がなく、保健師と業者担当者が幾度となくレイアウトを変更して準備し、さらに設営時も修正して健診当日を迎えました。周到に準備したこともあり、初日に心電図の 1 台が故障し多少混雑がありましたが、その他はほぼ順調に実施できました。また授業がないガイダンス期間中であつたため多くの学生が受診でき、1 年生の受診率は 90%弱と非常に良く、今後も継続していきたいと思えます。

新しい事業としては、協生環境推進室と連携し、SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) 相談を開始しました。昨年度のからだ相談に続いて、気軽に相談できる環境を整備できたこと、またマイノリティに対してもサービス出来たことは、とても良いと感じました。

最後に、2023 年 10 月にセンター所長が交代し、新執行部となりました。体制は変わりましたが、塾生等および教職員の保健を図るという目的は変わることは無いため、それに向けた新たなサービスの提供や業務改善などを考え、スタッフ一丸となって取り組んでまいります。

ご支援いただいている関係各所には、引き続きご協力および指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

慶應義塾大学保健管理センター年報編集委員会
中島清隆

年報編集委員会

編集委員長	横山裕一	
編集委員主幹	高橋綾 中島清隆	齋藤圭美
編集委員	森正明 西村知泰 山本聡子 木村奈々 外山千鈴 澁谷麻由美 大山晶子	井ノ口美香子 武田彩乃 阿部さゆり 松本可愛 室屋恵子 武藤志保 長井瑠菜 (順不同)

慶應義塾大学保健管理センター年報 2023

2024年8月31日発行

[非売品]

発行人 広瀬寛
慶應義塾大学保健管理センター
〔〒223-8521〕
横浜市港北区日吉4丁目1-1
電話045-566-1055

印刷・製本 (有)梅沢印刷所
